

心に残る文化財子ども塾 大田市立池田小学校

1. 活動の概要

6月18日(火)、大田市立池田小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに埋蔵文化財調査センターの職員から、パソコンのデータをモニターして、三瓶山と地域の歴史や小学校周辺の遺跡についての説明を行いました。次に県立三瓶自然館サヒメルの職員中村唯史さんからパソコンのデータをモニターして三瓶山の成り立ちや特徴について説明がありました。身近にある三瓶山について初めて分かったこともあったようで子どもたちは真剣に聞いていました。

次に、県埋蔵文化財調査センターの職員から、大田市内や三瓶山周辺の遺跡から出土した遺物と土器づくりの説明を行いました。土器づくりには中村さんや学校の先生方も参加して下さり、子どもたちは真剣に、楽しく土器づくりを行いました。粘土紐をつみあげて土器の形を作っていくのに少し時間がかかったり、苦勞した部分もありましたが、昔の人々の苦勞や技術の高さを少し実感してもらえたと思います。なかには土器に「とって」を付けたりするなど独創性のあるアイデアや、また友達の良いアイデアをとり入れるなど様々な工夫がみられました。土器の形ができあがったら、縄、ヘラ、貝殻など様々な道具を利用して、文様をつけました。土器の仕上がりは、子どもたちそれぞれ特徴のあるものになったと思われますが、全員、土器づくりをとおして昔の人々の生活を考える時間となったとおもわれます。また三瓶山の歴史を知るなど自分たちの地域に対して新たな興味を持つきっかけになったとも思われます。

2. 活動の様子

1)地域の歴史、三瓶山の歴史について学ぶ



国引き神話と三瓶山の関わりについての説明



三瓶山の歴史や特徴について、みんなにクイズを出しながら分かりやすく説明してもらいました。



土器を真剣に作っています。



「とって」もつきました。

3. 子ども塾を終えて

1)児童の皆さんから…

- 土器をつくるときに、とても時間がかかりたいへんだった。でも昔の人は粘土を作るところからやっていたのたいへんだったんだなと思いました。
- 縄文時代のことや三瓶山のことをもっと知りたいです。

- 昔の人はなぜ縄でもようをつけようと思ったのか不思議になりました。いろいろな形をした石や木の葉でもよかったのではないかと思います。
- 「土器のもようはいろいろある」と知れてよかったです。

2)担任の先生から…

- 子どもたちが本物や専門家に触れ、興味関心を深めることができたことがよかったです。
- 見学や資料収集が難しい本校のような状況の学校を引き続き選んでいただけるとうれしく思います。

3)埋文センターから

こどもたちの身近に存在する三瓶山について、いろいろ知ることができて興味を持って授業に臨んでもらえました。土器づくりでは、三瓶自然館サヒメルの中村唯史さんや先生方に参加していただいたことや、こどもたちの積極的な姿勢により、非常に助けられた感がありました。土器を形作るのにやや時間がかかる部分がみられ、時間配分や説明の仕方など考慮すべき点もあったかと思われます。また実際の出土遺物を(土器の形や文様などの説明に)土器づくりにもう少し活かせたのではないかと思います。